NIE実践報告

1．タイトル：「新聞」に親しみを持たせ、情報メディアとしての「新聞」を認識させる

2．学校名

吉田学園医療歯科専門学校(北海道)

3．実践者名（代表者名）

門脇　英敏

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

表現基礎　130人

6．単元（本時の学習課題）名

興味や関心ある記事を探しながら、新聞全体構成を把握し、「新聞」を身近なメディアとして親しませる

7．目標（狙い）

(1)「新聞」を身近なメディアとして親しませる
(2)新聞記事から情報を収集し、それを活用する能力を身につけさせる。

8．評価の視点

(1)一面から最終面までの新聞全体構成を把握できたか。
(2)複数の新聞、記事を情報源として活用していくための興味や関心を持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

(1)新聞に親しむ。(4時間)
(2)新聞記事に興味や関心を持ち、そこから情報を収集し、活用していく能力を身につける。(4時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1.新聞の特長を知る。
　(1)「新聞」の基礎知識
　　・全国紙と地方紙　・通信社と業界紙　・紙面の種類(本社版、版数など)　・発行部数(全国紙、地方紙、スポーツ紙)　(1時間)
　(2)紙面用語
　　・見出しの種類と付け方　(2時間)
　　・新聞記事の逆ピラミッド型文章と5W1H　(1時間)
2.複数の新聞から、興味ある記事を探し、「新聞」を身近なメディアとして親しませる。
　(1)「新聞」の紙面構成と記事探し　(2時間)
　(2)新聞記事や投稿を切り抜き、それに対する意見を2分間スピーチの原稿にする。　(2時間)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「新聞」に豊富な記事が載っており、多様な情報があることを改めて確認したようである。しかし、学生の感想を通し、活字離れ、新聞離れが深刻な一方で情報が限りなく存在している現状下で、講義が終了した後も学生が「新聞」への関心を維持していくことはかなり難しいだろう、と感じた。

12．成果と課題

生きた学習教材として「新聞」を活用してきた。しかし、これを通し、学生が「新聞を読む習慣を身に付けた」とは言えず、それを身に付けさせるには遅すぎる感を持った。NIEを実践した学校の児童、生徒以外は「新聞」になじんでいるとは言い難く、学習の補助教材としてどう新聞を有効に活用するかという視点と同時に、全ての学校でいかに「新聞」に親しむ環境作りをはじめるかが急務だ、と感じた。今だからこそ、専門学校や大学でNIEは重要であるが、その活動だけでは「新聞」離れは止められない。
新年度も情報源としての「新聞」に親しませるべく実践していく。